

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感情のコントロールが難しい児童が数名いる。とめに入った教員が怒りの対象になり、蹴られたり叩かれたりすることがあった。怒りの気持ちをコントロールできるよう指導している。 ○ 児童の気持ちに寄り添い、自尊感情を高めたり、達成感や成就感を味わったりできるように、共通理解のもと全教職員で指導にあたっている。また、地域やP T Aと連携したスポーツ活動も健全育成に成果をあげている。 ○ アンケート調査の結果、保護者・児童ともに学校生活や友達関係に関する項目は良好である。早期対応に心がけ、穏やかな雰囲気・暴力を認めない雰囲気の醸成に努める。
②いじめの状況等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちのすれ違いや、些細ないさかいから「いじめ」に至った状況が確認されている。すぐに対応したことで「いじめ」となる行為は解消されている。再発を防ぐための取り組みや見守りを行っている。 ○ 月1回の生活指導部会、職員会議のあとの児童に関する情報交換等により、早期発見・早期対応に努めている。 ○ アンケート調査の結果は、保護者・児童ともに学校生活や友達関係に関する項目は良好である。わずかに認められる否定的な回答が改善されるよう、望ましい集団育成に努めることが課題である。
③小・中学校における不登校の状況等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校児童・不登校気味の児童が数名認められる。保護者の願いを十分くみ取り、連携しながら不登校の状況が少しでも改善されるように、根気強く対応している。 ○ 家庭環境や生活習慣の不規則さなどから、登校しにくい児童が数名いる。登校を促す声掛けをしたり、保護者へ働きかけたりして、続けて休むことを少なくするようにしている。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること